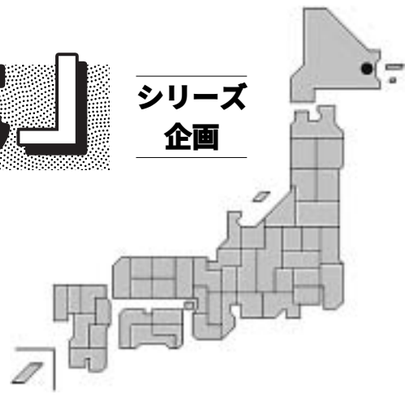
地域活性化を担う「産業観光」

シリーズ企画



第６次産業 注目のモデル

北海道・標津町

世界自然遺産に指定された知床半島を一望し、ラムサール条約登録湿地の野付半島など自然環境で第１級の観光資源を有する北海道の標津町は、産業観光の面でも地域一体の取り組みが、第６次産業のビジネスモデルとして注目できる。

地域が一体の「現業」

受け入れで旅館も役割果たす

産業観光は、地域や企業の現業そのものが観光資源となる。体験型（参加型・モノづくり型）と見学型などに区分できるが、北海道の東に位置する標津町には、それらの要素がすべてある。

一方、産業観光の旅行者は、一般観光旅行をはじめ教育旅行（体験学習）、SIT（知的好奇心を満たす旅行）、研修・視察旅行など形態はさまざまだが、旅行先の現業に接することで旅行の目的が達成できる。

受け入れ地と旅行者の両者を結ぶキーワードは、まさしく「現業」にほかならない。いわば、そこにある日常そのものが観光資源である以上、受け入れ地の日常から離れた「特別な行為」でないのは確かだ。

産業観光としてみた標津町のそれは、基幹産業の漁業をはじめ酪農や農業などさまざまだが、単にそれらの体験や見学にとどまらない。とりわけ注目できるのは、漁業での地域HACCP（別項参照）の取り組みだ。具体的には、標津町地域HACCP対応漁船（標津漁協サケ定置漁業部会・標津漁協漁船漁業者部会）→標津漁業協同組合地方卸売市場（地域HACCP対応市場）→標津町内水産加工業者（地域HACCP対応加工場）→標津町内流通業者（地域HACCP対応流通業者）→小売店を経て消費者へ――といった仕組みだ。

体験や見学など産業観光の定番だけでなく、第６次産業のビジネスモデルとして、漁業以外の第１次産業従事者に「産業観光ならではの満足（ヒント）」も提供できる。

結果として同町は、産業観光の受け入れ地の狙いである地域のPRと活性化、地場産品への理解、販売に伴う収益、就業への関心などさまざまな面でも奏功している。

そして、産業観光客を受け入れる旅館も、地域のコンセンサスのもとで一体化し、確実に一翼を担っている。

サケと並ぶ主要魚介のホタテ漁獲風景

第６次産業とは

一般的な産業の区分では、農業、林業、水産業をはじめとする第１次産業、製造や加工、水道やエネルギーなどの第２次産業、それに流通や小売、情報通信や金融、輸送などのさまざまなサービス産業を第３次産業としている。

また、第１次産業に付加価値をつけて１・５次産業と呼び習わすこともあったが、ここ標津町の漁業は、地域をあげた取り組みに加工と流通を複合させたことで、名実ともに「第６次産業」としてのビジネスモデルを完成させている。

標津町とサケ

漁業は標津町の経済を支える基幹産業の一つになっている。町内には現在28ヶ統（1ヶとう＝大人が数人で操業する定置網の単位）のサケ定置漁場があり、平均して4～5人で1ヶ統を経営し、全体では132人の漁業者によって営まれている。

標津町全体での水揚げ金額は約40～50億円、そのおよそ8割が秋サケで占められており、秋サケ漁獲量の過去5年間の平均は16万400トンで、日本でも有数の漁獲高を誇っている。さらに85年以降の20年間で、全国1位を15回記録した。

サケ増殖事業は、多い年で年間30万尾以上が遡上する標津川を含めた6河川で行っており、毎年約7400万尾の稚魚を放流している。

また、その中の1つの忠類川は、サケ資源の有効利用を目的とした「釣獲調査」が実施されており、日本国内はもとより海外からの釣人も集め、観光面からも大きな成果を上げている。

サケの上る川（右）と定置網漁の水揚げ風景（左）

釣り好きなら一度はチャレンジしてみたい忠類川のサーモンフィッシング

標津町の体験メニュー

体験メニュー	時間	可能時間
鮭定置網	3.0h	7～10
荷揚げ作業	2.0h	8～11
イクラづくり体験	2.0h	8下旬～11下旬
新巻鮭づくり体験（新巻鮭付き）送料別	2.0h	8下旬～11上旬
朝の市場見学	1.5h	11～4
ホタテ漁見学	1.5h	通年
芋掘り・芋料理体験	3.0h	8～10
森林間伐	4.0h	5～10
枝打ち	3.0h	5～10
植樹	3.0h	5～7
酪農体験	3～6h	通年
農家ホームステイ体験	1泊	通年
北方領土学習	1.0h	通年
流木アート体験	3.0h	4～12
木工体験	3.0h	通年
忠類川サーモンフィッシング	3.0h～	8～11
渓流釣り	3.0h	6～10
波止場釣り（海の公園釣り突堤）	3.0h～	5～11
海釣り	3.0h	5～11
ラフィング	3.0h	5～10
シーカヤック	3.0h	5～10
ホエールウオッチング	2.0h	4～10
アザラシウオッチング	2.0h	4～10
シカウオッチング	2.0h	1～3
バードウオッチング	2.0h	1～3
武佐岳登山	5.0h	6～10
野付半島自然観察	2.0h	5～11
乗馬体験	2.0h	5～11
標津湿原自然散策	2.0h	5～11
パークゴルフ	2.0h	6～10
キャンプ（海の公園）	1泊	6～10
流氷	2.0h	2～3
クロスカントリスキー	3.0h	1～3
スキー	3.0h～	1～3
スノーシュートレッキング・南知床コース	3.0h～	1～3
スノーシュートレッキング・野付半島コース	3.0h～	1～3
しべつ活々ホタテまつり	1.0h	5月下旬
標津町民祭り水・キラリ		8月上旬
しべつあきあじまつり	1.0h	9月下旬
とどわら太鼓	1.0h	通年

アラマキづくり体験（上）と酪農体験の一コマ（下）

四季を通じ多彩な体験プログラム

標津町では、研修旅行、修学旅行、総合学習、環境学習、カルチャー、セミナーなどに対応するプログラムを、現時点で40用意しており（別表参照）、見学、参加、体験の要素を満たしている。

同町は、サケに代表される漁業のイメージが強いが、一方で酪農地帯としても知られている。とりわけ自然の循環をベースにした「資源循環酪農」は、関心の高まるサスティナブル（持続可能な）へ対応した酪農であり、HACCPとともに従事者のコンセンサスを得ている。

また、海上24キロメートル先に臨む北方領土（歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島）は、日本人の過去と未来へ大きな課題を提起している。

標津町地域HACCP推進事業

消費者の間で「食の安全」が改めて問われている。北海道・標津町では、99年度に「地域HACCP推進事業」を立ち上げ、本物のおいしさとともに「安全、安心」を消費者に提供するシステムを稼動させた。これは、漁業者が恵まれた自然環境から、優れた鮮度保持技術により水揚げした魚介類を、その品質を維持したまま市場、加工場、流通業者に受け継ぎながら消費者のもとへ届ける仕組みだ。

同町では、地域HACCPについて「食品の安全性を確保するため、原材料の生産から消費者に渡るまでの工程で、あらゆる危害（微生物汚染や異物混入など）の発生を分析、予測し（HA）、またその危害が起こらないように工程中の重要な管理点（CCP）を決め、チェック項目を常時記録して常に安全性を確かめながら製造工程を監視する方式」と説明している。

ちなみに、発想のベースとなっているHACCP（Hazard Analysis Critical Control Points＝危害分析重要管理点方式）は、NASA（アメリカ航空宇宙局）が、宇宙食の衛生管理と安全性確保ために開発したシステム。最終的な製品検査だけでなく、製造の全行程を管理することで製品の安全性を保証するものだ。

わずか24キロ先に北方領土を望む（国後島）

私たちが、日本の旅館・ホテルを元気にします。

日本の中堅中小企業を元気にしたい。
そのような熱い思いで集まった、200人の専門家が私たちの強みです。
旅館だから、ホテルだからといって特別な手法があるわけではありません。
現場主義、目に見える結果と経営者の喜び、
これが私たちのこだわりです。

こんなことで困っていませんか？
○ 銀行との付き合い方がわからない
○ 会社の跡継ぎがいない
○ 借入金の返済が重い
○ 毎年売り上げや利益が減っている
○ 事業計画が作れない

山田ビジネスコンサルティング株式会社
YAMADA Business Consulting Co.,Ltd.

08年、全国各地でセミナーを開催します。まずは無料相談を。専門家が親身になってお答えします。
お問い合わせ（email）：amanoyu@y-bc.co.jp（担当：天野）

〒160-0023
東京都新宿区西新宿1-23-7　新宿ファーストウェスト12階
Tel.03-5322-3266（代表）　03-5322-3364（直通）
Fax.03-5325-1338　http://www.y-bc.co.jp